

厚生労働科学研究費補助金  
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)  
分担研究報告書

Value-based medicine の推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究

研究分担者 泉 知里 国立循環器病研究センター心臓血管内科 部長  
野口暉夫 国立循環器病研究センター 副院長  
山本展誉 宮崎県立延岡病院循環器内科 主任部長

研究要旨

日本循環器病学会の教育研修施設に対して、心不全患者に対する多面的包括管理に関する質問票調査を行ない、心不全の疾患管理の実態調査を行なった。

A. 研究目的

本研究の目的は、心不全の多面的予後評価および多職種連携による多面的疾患管理の実態を調査することである。

B. 研究方法

日本循環器病学会の教育研修施設に対して、心不全患者に対する多面的包括管理に関する質問票調査を行なった。

(倫理面への配慮)

個人を同定できる項目は質問に含まないよう配慮した。

C. 研究結果

431 施設から回答が得られた。

1. 地域連携パスの使用は 14%と少なかった。
2. 多職種による患者の疾病教育は、入院中には行われているが、退院後は少ない。
3. 退院後の予後評価に、リスクスコアを使用している施設は極めて少ない。

D. 考察

1. 心不全という疾患の特性として、個々の症例のバリエーションが大きいことがあげられるが、この多様性が連携パスの使用率を低くしている可能性が考えられた。

2. 退院後までの seamless な教育が継続できておらず、医師の外来受診だけでなく、多職種が継続して関わる仕組みが望まれる。

3. リスクスコアが使われていない理由はその認知度の低さや煩雑さが影響している可能性がある。電子的手法などにより簡便に計算される仕組みができれば、疾患管理に有用である可能性がある。

E. 結論

心不全の疾患管理の実態調査を行なった。これらの結果をもとに、QOL 評価と多面的疾患管理を行う全国統一システムの構築を目指す必要がある。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表: なし
2. 学会発表: なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得: なし
2. 実用新案登録: なし
3. その他: なし